

弓削商船高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	校内練習船実習 (機関)
科目基礎情報					
科目番号	5A02		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	商船学科		対象学年	5	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	はじめの船上英会話：商船高専海事英語研究会編（海文堂）弓削丸完成図書、実習の手引き、実習ファイル、その他配布書類等				
担当教員	松永 直也, 山下 訓史				
到達目標					
航海・機関に関する運航技術の基礎訓練を他の授業の進捗度合いに合わせて行い、船内生活を体験し船舶職員としての資質を涵養し、国際的な船員を目指す。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	出入港作業	作業を理解し積極的に参加している。	作業を理解している。	作業に参加していない。	
評価項目2	機関当直	機関当直の概要を理解している。	機関当直の概要の理解が曖昧。いない。機関当直の概要を理解していない	機関当直の概要を理解していない。	
評価項目3	ブラックアウト処置法	ブラックアウトの対処法を理解し行動できる。	ブラックアウトの対処法は理解しているが行動が出来ない。	ブラックアウトの対処法を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係					
専門 A2 専門 E1 専門 E2					
教育方法等					
概要	練習船の運航実習を通じ、主機・発電機・その他各機器の正常運転状態を体得する。班編成を行い実習効果をあげる。十分に周りの危険に注意を払い緊張感をもって実習に取り組むこと。この科目は、商船における操船・機関・運航業務を担当していた教員が、その経験を活かし、航海学と機関学に関する技術について実験実習形式で授業を行う。				
授業の進め方・方法	練習船の運航実習を通じ、緊急時の対応実習を行う。少人数班編成において実施する。単位認定試験を実施する。養成施設引当て科目（単位）：機関コース〔出力装置(0.1), 当直・保安(0.1), 環境汚染防止(0.1), 損傷制御(0.2), 乗組員の管理(0.2)〕				
注意点	危険を伴う実習のため指定された服装を厳守のこと。（学則遵守） 実習前および実習中の体調管理に留意すること。				
実務経験のある教員による授業科目					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習のガイダンス・当直実習	チェックリスト巡回監視ができる 安全管理一般を理解する 乗組員の各種訓練を理解する	
		2週	機関管理 当直実習	指圧図撮取ができる	熱効率算定ができる
		3週	機関管理 当直実習	指圧図撮取ができる	熱効率算定ができる
		4週	応急運転法	船内アース事故探索法を修得する	
		5週	応急運転法	船内アース事故探索法を修得する	
		6週	応急運転法	船内アース事故探索法を修得する	
		7週	ブラックアウト処置法	ブラックアウト処置ができる	
		8週	ブラックアウト処置法	ブラックアウト処置ができる	
	2ndQ	9週	ブラックアウト処置法	ブラックアウト処置ができる	
		10週	危急ビルジ排出法	機関室浸水時の応急処置を理解する	
		11週	危急ビルジ排出法	機関室浸水時の応急処置を理解する	
		12週	危急ビルジ排出法	機関室浸水時の応急処置を理解する	
		13週	目的地、使向地、実習計画の立案・認可	仕向地への実習計画の立案等ができる	
		14週	目的地、使向地、実習計画の立案・認可	仕向地への実習計画の立案等ができる	
		15週	目的地、使向地、実習計画の立案・認可	仕向地への実習計画の立案等ができる	
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			

4thQ	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	0	40	0	0	100
基礎的能力	40	20	0	40	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0